

地域・社会との共生

特種東海製紙グループは、地域・社会の発展に貢献できる企業を目指し、法令の遵守はもちろんのこと、地域住民との交流を深めながら企業市民として社会的責任を果たしていきます。

マテリアリティ 6

地域・社会への貢献

継続的な生産活動を実現していくためには、私たち企業と地域社会の双方向の理解に加え、両者の環境・経済・社会の便益を共有していくことが不可欠です。企業が立地する地域の環境改善や雇用の安定確保、地域住民との交流など、様々な機会を通じて企業と地域社会の双方が持続的に発展していくことが理想であり、これらの活動は地域に根差した企業の責務ともいえます。

当社グループでは、地域の課題解決に加え、より地域が発展するための活動をこれからも継続・拡大し、地域住民との信頼関係をより強固なものにすることを目指しています。これまでも地域行事の開催や用紙の提供、未来を担う子供たちのための工場見学会の開催や教育活動、地域の環境と安全の構築のための美化活動などを行ってきました。今後もさらに活動の輪を広げるために、地域住民との対話を推進し、地域住民のニーズを把握することで、これまで以上に地域・社会との共生に資する取り組みを行っていきます。



地域・社会への貢献に向けた取り組み

■ 現地学習会の支援

井川社有林が含まれる南アルプスユネスコエコパーク登録地域内で生活する子供たちに、井川社有林の概要や地域・企業の取り組みのほか、南アルプスに残る貴重な自然環境を知ってもらうため、静岡市の事業に賛同し、井川小中学校の生徒への事前授業と現地学習会を支援しました。

併せて、2024年の南アルプスユネスコエコパーク10周年に行われる記念植樹に向け、ミズナラのどんぐり拾いも実施しました。今後も地域と協働し、教育フィールドとしても井川社有林を活用していきます。



現地学習会の様子

■ 地元学校の工場見学会の開催

地域の小学生を対象として、工場及び企業資料館Pamの見学会を毎年実施しています。紙という身近な素材の多彩な種類や製造工程、様々に加工・消費されていく流れを紹介するとともに、水や木材資源、リサイクルの重要性にも触れながら、学び・体験の機会を提供しています。さらに、工場見学会時だけでなく、学校や家庭での気づきにつながるように、紙の理解を深めるための資料を配布しています。



工場見学会の様子

2020年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、地域工場見学の受け入れは実施できませんでしたが、当社グループの社員が直接近隣の小学校に伺い、紙のつくり方をはじめとした企業活動に関する出前授業を行うことで、地域社会との交流を途切れさせることなく活動を継続しました。

今後の取り組みとして、島田市内の親子を当社グループへ招き、紙すきの体験を行うなどを計画しており、今まで以上に幅を広げた地域貢献活動を実施していきます。



出前授業の様子

■ アマゴ放流活動の実施

毎年、地域社会への環境教育の一環として、近隣の河川においてアマゴの放流活動を実施しています。

具体的な活動としては、狩野川水系水質保全協議会主催のもと、近隣企業や園児など40名程度で約500匹のアマゴを放流することで、自然に触れあいながら生態系について学ぶ機会を提供し、地域社会との共生を図っています。

綺麗な河川で園児と共に魚と戯れることは、微笑ましく、心が癒される一時となっています。



アマゴ放流活動の様子

■ 紙わざ大賞

「紙わざ大賞」は、自由な発想と創作を対象とするペーパーアートのコンテストです。1991年に島田市の有志団体が始め、2011年から当社グループが運営を引き継ぎ、2021年には30回目を開催しました。全国より幅広い年齢層の作者にご参加いただき、これまでの応募作品は5,000点を超えています。各地での巡回展も積極的に開催しながら、当社は本事業を、「ユーザーとともに素材の可能性を探る交流の場」と位置づけ、紙文化の発展の一助となるよう期待しています。

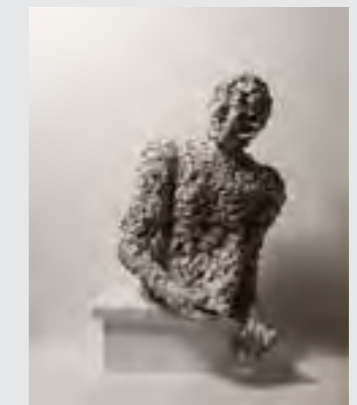


紙わざ大賞 審査風景
福田美蘭 審査員(左) 日比野克彦 審査委員長(右)

紙わざ大賞の入賞作品 (2021年 第30回)



【大賞】「示相化石 S-4」



【準大賞】「今を生きる」



【特種東海製紙賞】「Lion's Face」



【学生賞】「空の道」

マテリアリティ 7

安心安全に働ける職場環境づくり



企業を取り巻く事業環境は、変化のスピードが増しており、組織が競争力を維持し続けるためには、より柔軟な対応力や敏捷性を持った人材の確保がますます重要となっています。

当社グループにおいても、変化の時代に対応できる人材を「人財」と位置付け、従業員一人ひとりが心身ともに健康で安心して働ける会社を目指します。

当社グループは「安全第一を最優先として位置付け、一人ひとりが快適で働きやすい職場環境を目指すとともに健康維持増進を図る」を基本理念に掲げ、安全で快適な職場環境づくりに向け取り組んでいます。

労働安全の取り組み

リスクアセスメントにもとづいた設備の安全対策・作業環境の整備や安全基本行動の徹底を図っています。

さらに、グループ各社の安全衛生担当者で構成するグループ安全衛生連絡会による職場巡視、5S活動のレベルアップなど、災害ゼロを目指した活動を展開しています。



安全衛生パトロール（三島工場）

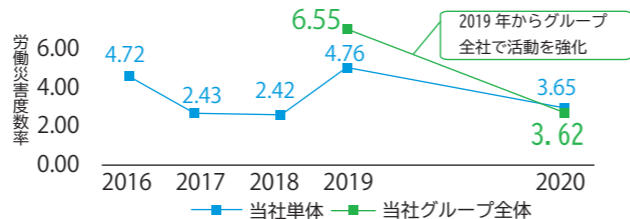
また、従業員一人ひとりの安全意識高揚を図ることを目的に、安全体感教育の実施、経験年数や階層に応じた各種教育を実施しています。



声かけによる安全啓蒙活動

労働災害率の推移

労働安全に関わる取り組みを強化したことにより2019年には6.55であった労働災害率が2020年には3.62まで下がりました。



労働衛生の取り組み

従業員の健康管理の柱となる定期健康診断の実施、その結果を用いた産業医との面談や保健指導、二次検診の受診勧奨による健康の維持増進を図っています。

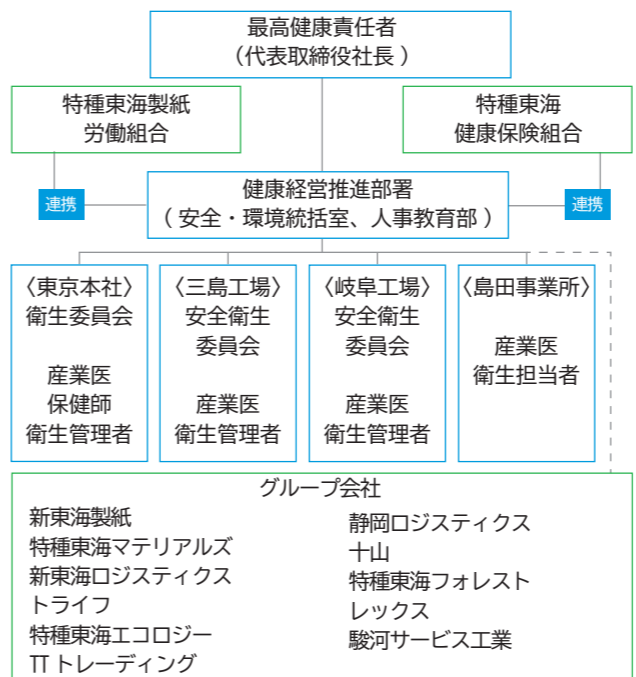
また、管理者を対象としたラインケア研修や全従業員を対象としたセルフケア研修、ストレスチェック結果にもとづく職場環境の改善など、メンタルヘルス対策の強化に加え、がん検診の受診推奨及び支援、インフルエンザ出張予防接種の実施など、疾病予防事業にも注力しています。



研修会の様子

健康経営の推進

当社では、健康経営の推進を図るため、2019年4月に代表取締役社長松田裕司を最高健康責任者とする健康経営推進部署(安全・環境統括室)を組織しました。



健康経営推進体制

健康経営宣言『明るく生き生き働ける会社を実現させるため、従業員一人ひとりが心身ともに健康で安心して働ける会社を目指す』のもと、安全・環境統括室が各事業所の安全衛生部門や健康保険組合と連携して、従業員の健康増進や職場環境の改善等の健康課題に対する取り組みを実施しています。

ダイバーシティに係る取り組み

当社は、ダイバーシティ推進のための重要課題として女性活躍推進を位置づけ、行動計画に掲げる下記の目標の達成に向け、各拠点の社員で構成するダイバーシティ推進チームが様々な施策を実施しています。

女性活躍推進法にもとづく行動計画

計画期間：2021年4月1日～2026年3月31日

目標1：女性のキャリア形成を支援
⇒管理職及び管理職候補者層における女性比率10%を達成する。(2020年度実績7.4%)

目標2：女性の職域を拡大
⇒女性のいない職場へ新たに女性を配属する。

目標3：柔軟な働き方に資する制度の利用率向上を図る。
⇒育児休暇取得後の女性社員、及び配偶者出産後の男性社員の制度利用率20%を達成する。(2020年度実績8%)

女性社員意識調査の定期的な実施

現状の認識や将来への志向、課題を抽出する質問を通じて、女性社員の気づきを促し、全体の傾向や分析結果を本人及び管理職と共有しています。また取締役会でも報告事項として取り上げています。

様々な研修、面談の実施

全女性社員対象のキャリアデザイン研修、性別にかかわらずない課題として介護を取り上げたセミナー、アンケート形式のアンコンシャスバイアスチェックなど、意識改革の促進をベースに置き、性別による分業意識の撤廃や職域の拡大などを推進しています。また様々なライフステージにおいて、会社の制度(育児・介護関連、大学院等への進学支援、社内公募制度、複線型人事制度など)を活用するべく、必要に応じてキャリアプラン面談・研修を行うなど、女性社員と管理職の双方に理解と情報共有を促しています。



キャリアデザイン研修の様子

各種認定の取得

女性活躍推進度を客観的に把握する手段として、経済産業省、東京証券取引所による女性活躍度調査に毎年参加し、その結果、なでしこ銘柄2020の選定(2020年3月)を受け、くろみん(2020年10月)の認定を取得しました。



なでしこ銘柄の選定証

